



子育て伴走「だいじょうぶ！」通信 No. 12

～みんな大切 笑顔あふれる家庭とこども園に～



R 5. 9. 2 8 やすぎこども園 園長 福島朗博

◆園風景から

今年の夏は異常な暑さ続きでしたね。園ではおかげでプールや水遊びが子どもたちの大きな楽しみになり、また例年より回数多くできたことで、子どもたちの顔つけや潜りなどの上達ぶりが目立ったようです。「水遊びやりたい！楽しい！」ことから好きなことになり、続けていたらいつのまにか顔つけなど苦手だったことができるようになっていたという成長、そして「できた！」という自信からコツコツ続ける粘り強い気持ちが芽生えた子がいたことでしょう。『好きこそ物の上手なれ』。今号は、子育て特集として「非認知能力」を取り上げてみました（裏面）。ようやく涼しくなってきたこの頃、親子で「運動の秋」や「文化の秋」「〇〇の秋」（食欲&親子調理の秋もいいですね♪）を楽しんでみませんか。

○9月 松江養護学校安来分教室の生徒による交流学习（保育ボランティア）

特別支援学校である松江養護学校安来分教室のことを紹介します。安来高等学校の校舎内に設置されて15年目になります。現在、安来市出身の生徒を中心に14名の生徒が通い、教科や作業学習等を主体にした勉学に励んでおられます。その中で、地域産業と連携した学習を展開しながら、安高生徒だけでなく、地域住民との積極的な交流活動を行っていくことで、共生社会の形成を目指しています。具体的には、障がいのある人もいない人も地域の中で生活し、ともに支え合い育ち合う環境づくりです。

この度、安来分教室の3年生5名の生徒と本園のそら組年長児グループで、初めての交流学习を行いました。まず6月に生徒が来園して、子どもたちと自由に遊んだ体験と、保育者への質問の回答をもとに、「どんな活動をしたらあの子たちが喜んでくれるだろうか」とクラスの仲間で意見を出し合って今回の保育プログラムを考えたそうです。また自分たちで調べて、0歳～5歳の「体の動き」「遊び」「コミュニケーション」などの成長の様子が見られる『幼児の発達段階表』も作成して、安高の生徒も見れるよう廊下に掲示しました。

学校での練習は恥ずかしくてあまり進まなかったそうですが、当日本番では子どもたちを前に、にこやかに楽しくやっていたので、みんながノリノリになって盛り上がりました（下写真）。絵本の読み聞かせから歌遊びやゲームにつなげていく流れの工夫も見事でした。



絵本「だるまさんと」の読み聞かせを寸劇入れて



絵本に出てきた果物のお面かぶってフルーツバスケット



お兄さん得意なダンスを真似したくて寄ってくる子



お姉さんの弾くピアノで貨物列車シシシ♪

昨年度には、安来高等学校の生徒も授業の一環で本園で保育実習を行い、子どもたちと遊びの中で学んでいただきました。核家族化やきょうだいが少ない昨今、小さな命と心こめてかかわることは、人間形成の上で大きな意味があると思います。私たちの願いは、両校の生徒たちが実際にかかわって、子どもたちをかわいい！と感じて、でも思い通りにならない戸惑いも味わいつつそれでも楽しかった！という体験が、個々の優しさにつながることです。次回は2月に、今度は年中児さんも一緒にそら組全員で交流を行う予定です。お楽しみに。

絵本「だるまさんと」かがくいひろし作（ポプラ社）



○大人との基本的信頼感を土台に、好きなことや
てみたいことをとことん！で育まれる非認知能力

「非認知能力」という言葉を知っていますか。こ
の度の幼稚園や小学校の新学習指導要領で非認知能
力の重要性がふれられ、マスコミでも取り上げられ
るようになりました。

学力や IQ（知能指数）など数値で測れる「認知能力」に対して、**非認知能力**は「意欲、協
調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力」といった、
目に見えない測定できない能力です。これからの目まぐるしい社会の変化に対応し、たくま
しく生き抜いていくためには、学びに向かう力や人間性として、「何かをやり抜く粘り強さ」
「自分の感情をコントロールする力」「人とうまくかかわる力」といった非認知能力が求めら
れます。つまり、いくら IQ が高くても、自ら学ぶ姿勢が弱かったり、コミュニケーションが
とれずに他人と上手くかかわれなかったりすると、挫折を繰り返し、生活の質が低下してし
まいます。

それでは、非認知能力を高めるのに最も大切な条件は何でしょうか。それは、**乳幼児期か
ら大人に愛されて無条件に受け入れられたという経験**をもつことです。お父さんやお母さん
からの絶対的な愛情を感じることで、心が安定し、そこから自分の感情をコントロールでき
ること、やりたい、人とかかわりたいといった意欲をおこすことにつながっていきます。（心
の安定があって、その上に意欲が乗っかることは、この園長だよりで繰り返しお話をさせてい
ただいていますが、大人にとっても同じことが言えそうですね。）

その上で、**子どもが好きなこと、面白そう！やってみたい！と思うことをとことんかかわ
らせる**、例えば、自然の中での虫取りや魚釣り、道具を使った工作、縄跳びやコマ回しなど
の遊び、シリーズものやいろいろな絵本を読む、虫の図鑑を見る、電車の絵を描く、大好きな
おばあちゃんに絵や手紙を送る、などなど何でもいいのです。子どもが一生懸命取り組んで
いる様子を褒めたり聞いたり一緒に楽しんだり見守ったりして、応援してほしいと思います。
親の愛情を受けて育った子どもは、安心感に支えられた意欲のもと自己肯定感が高いので、
「わたしできるよ！ぼくすごいじゃん！」「もっとがんばってみる！」と何事にもやり遂げる
力が強くなっていきます。そして、がんばっているところの過程を褒められると、自信をつ
けて、やりたい目標を見つけ、それに向かっ
て頑張ろうとする粘り強さが出てきます。

また親の方も趣味や特技をもっていて、そ
れを子どもにもわかるように親も楽しんで頑
張っているよと見せたり、誘ったりすること
も素敵なことですね。

自分に自信があり、何事にも挑戦していく
姿勢、心にゆとりをもち、人に優しく接して
多くの人が慕ってくれる。みんながそんな人
生を望んでいるように、子どももそんな人生
を歩んでいけるよう、基本的信頼感のもと
で、子どもとのかかわり方や好きなことの興
味関心を大事にしていきたいですね。

**非認知能力の土台は乳幼児期から
愛着関係が非認知能力を育みます**

認知能力
知識・技能
思考力
・判断力
・表現力

非認知能力

学びに向かう力・人間性

【自己に関わる心の力】
自己を大切にし適度に
コントロールでき、さらに高
めようとする心の力

【社会性に関わる心の力】
集団の中にとけこみ、他者
との関係をつくって維持し
ていく力

自己肯定感・自制心
・粘り強さ・自律性

コミュニケーション能力
・共感性・思いやり・協調性

愛着関係 ⇒ 基本的信頼感

不安なとき、感情が崩れたときに特定の大人が
受け止めて立て直すこと。安心感を与えること

図は遠藤利彦(2022,東京大学)講演を基に福島作成

園長の

ことば・子育て相談日 10月14日（土）を予定しています
ご希望の方は平日でも受けつけます

園長だよりバックナンバーはこちらです⇒

